

第2学期終業式式辞（令和6年12月20日）

皆さん、おはようございます。今日で2学期が終了します。2学期の始業式に、ここで、スライドを使って、「情熱と実行、それは幸運を呼ぶかもしれない。」という言葉を紹介しました。覚えてくれているでしょうか。強い情熱に実行力が伴って、あるいは反対に、地道な積み重ねに熱い思いが加わって、最後に幸運が訪れるかもしれない、この言葉を、運動会や部活動に当てはめて考えた人も多いと思いますが、今、頑張っている3年生に、改めて、この言葉とエールを贈ります。受験に向けて、自分の信念と、ここぞというときの実行力を発揮して、頑張っていきましょう。

1・2年生の皆さんも、3年生のあとに続いて、「やればできる」という言葉がありますが、その言葉を「やったらできた」という達成感に変えることができるよう、努力を続けてほしいと思います。

今日は、2学期に、私に届いたメールを二つ、紹介します。一つは、渡邊明弘さんからのメールです。渡邊さんは、「大地の花束」の動画を作った方で、2、3年生には、去年紹介していて、HRなどで、動画を見てくれた人もいると聞いています。1年生は、今年の10月に「命の授業」の講演に来てくださった、あの渡邊さんです。

今から10年前、2014年12月、高校1年生だった渡邊さんの息子さん、大地さんが、学校から帰る途中、トラックにはねられ、頭を強く打って尊い命が失われました。松山のできごとです。大地さんは、お母さんの誕生日に贈るために、折紙で作った花束を用意していました。大地さんの部屋で、その花束を見つけたときの御夫婦の思いはどんなものだったか、その思いが、動画やこの本に込められています。1年後の2015年7月、高校生の命を守るため、自転車通学生のヘルメット着用が義務付けられました。

今、渡邊さんは、二度とこのような事故を起こしてほしくない、という祈りを込めて、車を運転する人や学生に向けた講演活動を続けておられます。その渡邊さんからのメールです。

（要約）徳島の大学で行った講演の感想文の中で、愛媛出身の学生が、愛媛では当たり前だったヘルメット着用が、徳島ではとても少ない、愛媛では信号のない横断歩道で車が止まってくれていたのに、徳島ではなかなか止まってくれない、その愛媛の交通安全の取組が高校生の犠牲によるものだったことを、今日の講演で知った、と書いてくれました。松山東高校で学んだ生徒さんたちも、将来、県外の大学に進んだときに大きなギャップに驚くかもしれませんが、周りに正しい手本を見せてくれることを期待しています。

私も、愛媛の教員として、東高の校長として、何ができるか考えたときに、たとえしつこいと思われても、皆さんに、尊い命を守ることの大切さを訴え続けていきたい。そして、人への思いやりや人への感謝、そんなことの大切さについて、これからも、伝えていきたいと思っています。

もう一つ、松山大学の方から届いたメールです。

（要約）今年の10月から2か月間、松山大学の図書館を高校生に開放したところ、利用したのべ906名の高校生のうち東高生は、のべ78名。東高生が、集中して、長時間、机に向かう姿は、とても印象的で、他の高校生や大学生にもいい刺激になったようです。現在、図書館は開放していませんが、再開時期については、目処が立ちしだい、校長先生へ御連絡をさせていただきます。

これが、二つ目のメールです。

誰かに評価されるためでなく、自分自身のために、しっかり勉学に取り組んでいる東高生を誇りに思います。そういうあなたたちを周りの人は評価してくれています。自分の取組、真摯な努力に自信を持って、引き続き勉学や部活動に励んでください。そんな東高生を心から応援しています。

皆さんが、体に気を付けて日々を過ごし、充実の新年を迎えられることを願って、式辞を終わります。